

2014年度第I期収蔵品展

開館10周年

宮本三郎の仕事

1920's—1930's

修行時代から滞欧期まで



宮本三郎《赤い背景》1938年 カンヴァス、油彩

2014年 4月5日(土) — 7月27日(日)

開館時間 10:00 ~ 18:00 (最終入館は17時30分まで) 休館日 毎週月曜日(ただし、祝・休日と重なった場合は開館し、翌日休館)

観覧料 一般200円(160円)、大高生150円(120円)、65歳以上/中小生100円(80円)

※ 障害者の方は100円(80円)。ただし障害者で小・中・高・大学生、および障害者の介護者(当該障害者1名につき、1名に限る)は無料。証明書を提示のうえ、お申し出ください。※ ()内は20名以上の団体料金。※ 中・小学生は土、日、祝・休日、夏休み期間は無料。

交通案内 ■ 東急大井町線・東横線「自由が丘」駅より徒歩7分 ■ 東急大井町線「九品仏」駅より徒歩8分

■ 東急目黒線「奥沢」駅より徒歩8分

世田谷美術館分館

宮本三郎記念美術館

〒158-0083 東京都世田谷区奥沢 5-38-13

TEL.03-5483-3836

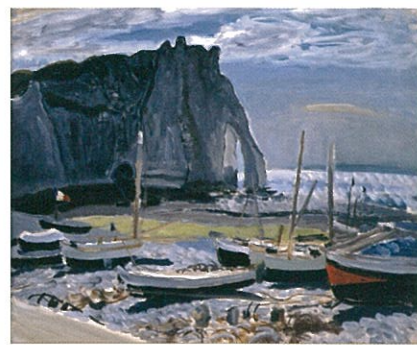
<http://www.miyamotosaburo-annex.jp/>



宮本三郎《花と女》1932年 カンヴァス、油彩

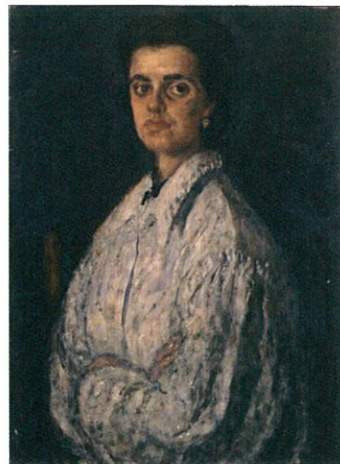


宮本三郎《京橋風景》1930年 板、油彩



宮本三郎《エトルタの海》1939年 カンヴァス、油彩

「私の周囲がそれ程私の前途に期待していなくなつてゐたし、画家といふ特殊な職業が彼等に多くの希望を持たせなかつたから、私は極めて身軽にこの冒険的な仕事に安々と身をまかせることが出来た。」
(宮本三郎『宮本三郎南方従軍画集』陸軍美術協会出版部、1943年9月)

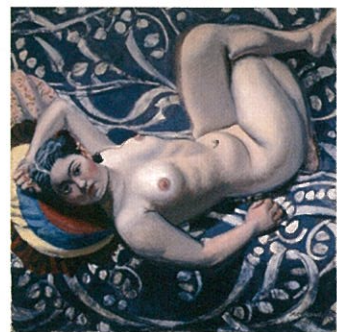


宮本三郎《着衣像》1938-1939年 カンヴァス、油彩

宮本三郎の仕事

1920's — 1930's
修行時代から滞欧期まで

2014 年度第I期収蔵品展



宮本三郎《青い数物》1935年 カンヴァス、油彩

今年度、当館は開館10周年を記念して、宮本三郎(1905-1974)の約50年にわたる画業を3つの時期にわけて回顧し、収蔵品による展覧会を開催いたします。

第1期となる本展では、「修行時代から滞欧期まで」と題し、当館所蔵の宮本作品としては最初期の《不詳(妹・志乃像)》(1922年)をはじめ、1938年から1939年にかけて訪れたヨーロッパ滞在中に制作した作品までを、宮本が携わった雑誌の表紙絵や連載小説挿絵の仕事とあわせてご紹介します。

1920年代から1930年代、つまり宮本が10代後半から30代半ばの年齢だった頃は、彼が画家として独立していくために画学校等で切磋琢磨し、その努力もあって作品が周囲から認められていく時期にあたります。それは宮本が、1927年に「第14回二科展」で初入選を遂げたのち、1935年に生涯の制作拠点となるアトリエ兼住居を現在の世田谷区奥沢に新築、翌年の「第23回二科展」で二科会会員に推荐されたことからもうかがい知れるでしょう。しかし一方、1929年頃からはじめた雑誌の表紙絵や挿絵の仕事が、展覧会で発表する油絵に通俗的な意味で影響していると意見されることもありました。新進画家として高く評価され、一見順調にも見える足取りの中で、宮本自身葛藤の日々を送っていたと言えます。宮本は1938年10月に日本を離れ、翌1939年9月まで初めての長期ヨーロッパ滞在を果たしますが、これは、多忙をきわめた挿絵の仕事から離れ、油絵の本場で西洋美術の古典をつぶさに見つめ、自己の制作と向き合うことが目的でした。

生まれ故郷・石川県を15歳で離れ、東京を基盤にし、画家として一人立つべく奮闘した宮本三郎の青年時代の軌跡をご覧ください。



宮本三郎《不詳(妹・志乃像)》1922年 カンヴァス、油彩

世田谷美術館分館

宮本三郎記念美術館

〒158-0083 東京都世田谷区奥沢5-38-13

TEL 03-5483-3836

<http://www.miyamotosaburo-annex.jp>

交通案内 東急大井町線・東横線「自由が丘」駅より徒歩7分
東急大井町線「九品仏」駅より徒歩8分
東急目黒線「奥沢」駅より徒歩8分



©宮本和義



世田谷美術館

〒157-0075 東京都世田谷区砧公園1-2

TEL 03-3415-6011 (代表)

展覧会のご案内: TEL 03-5777-8600

(ハローダイヤル)

<http://www.setagayaartmuseum.or.jp/>

※詳細はホームページなどでご確認ください。

同時開催企画展

- 岸田吟香・劉生・麗子 — 知られざる精神の系譜
2014年2月8日(土)～4月6日(日)
- 桑原甲子雄の写真 — トークショー・スケッチ60年
2014年4月19日(土)～6月8日(日)
- ポストン美術館 華麗なるジャポニスム展 印象派を魅了した日本の美
2014年6月28日(土)～9月15日(月・祝)

同時開催

- ミュージアム コレクション
- 画文往還 世田谷の文人たち
2014年1月25日(土)～4月20日(日)
- 陶芸家・吉田喜彦展
2014年4月29日(火・祝)～6月8日(日)



©宮本和義

世田谷美術館分館 向井潤吉アトリエ館

〒154-0016 東京都世田谷区弦巻2-5-1

TEL 03-5450-9581 <http://www.mukaijunkichi-annex.jp/>

向井潤吉 民家十二カ月

2014年4月5日(土)～7月27日(日)



©宮本和義

世田谷美術館分館 清川泰次記念ギャラリー

〒157-0066 東京都世田谷区成城2-22-17

TEL 03-3416-1202 <http://www.kiyokawataiji-annex.jp/>

清川泰次 — かたちの変遷

2014年4月5日(土)～7月27日(日)